

令和6年度前期「『みんなで成長』アンケート」の結果について

平素は本校教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、7月に実施いたしました「『みんなで成長』アンケート」につきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。なお、学校運営協議会でも本結果をもとにご意見を頂戴しましたので、その内容も併せて記載しております。本結果をもとにこれまでの教育活動等を振り返り、本校の子どもたちはもちろんのこと、本校に関わりのある方々も含めまして共に「みんなで成長」できる下鴨教育をめざしていきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

学校教育目標

**学びを創造し、
共に挑戦する
子どもの育成**

めざす子ども像

下鴨小の「a・i・u・e・o」

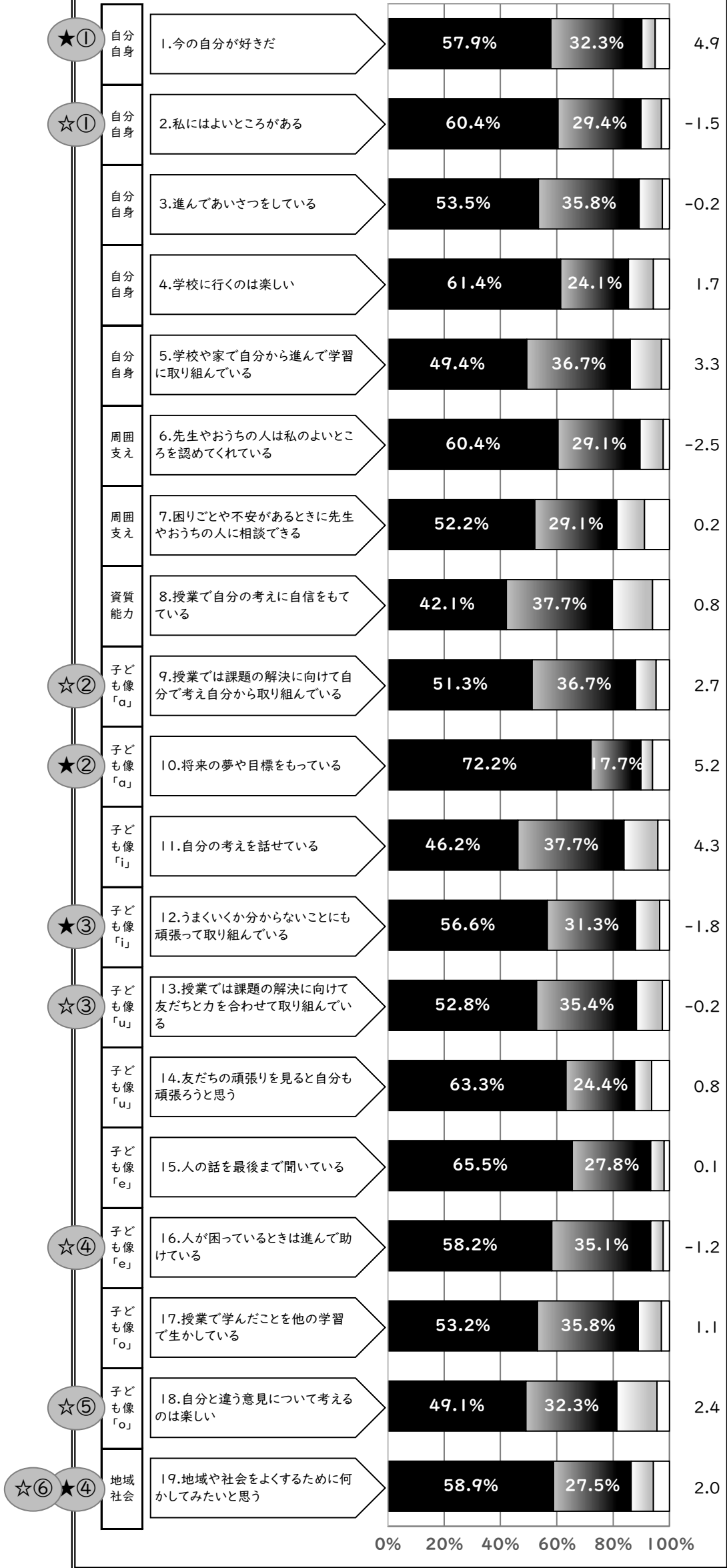
- a**mbition : 見通しをもった志のある子
- i**nnovation : 新たなことにチャレンジする子
- u**nity : 共に力を合わせる子
- e**steem : 自分も相手も大切にする子
- o**riginality : 自分らしい学びを創り出す子



【児童】

有効回答数：316

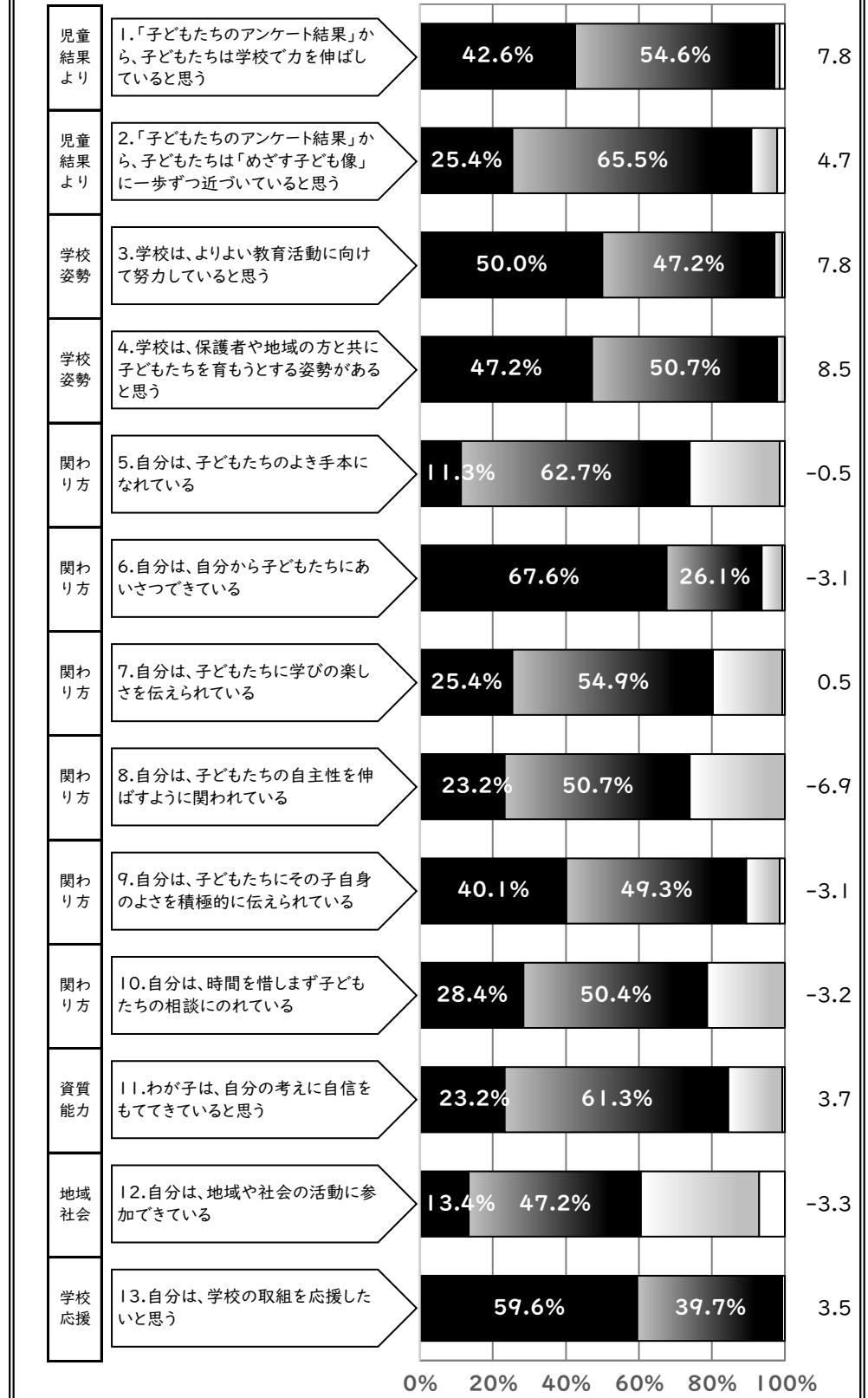
令和5年度前期の肯定的回答率との比較



【保護者】

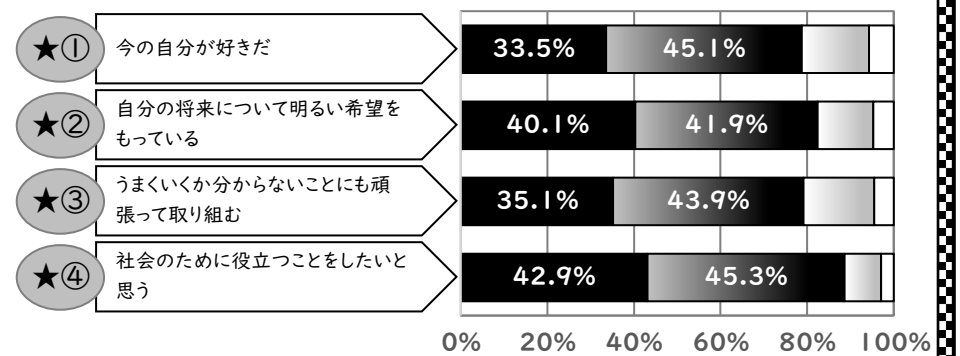
有効回答数：142

令和5年度前期の肯定的回答率との比較

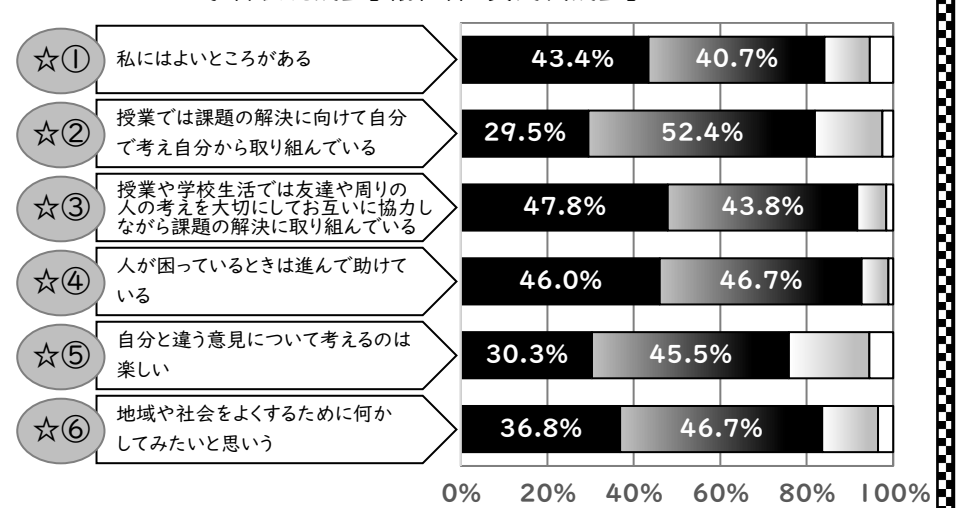


全国的な傾向は…

【参考①】 内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」報告書（令和5年3月）内、「10歳～14歳対象調査」より



【参考②】 文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査」報告書「質問紙調査」より



(カテゴリー)

(質問項目)

あてはまる

どちらかといえばあてはまる

どちらかといえばあてはまらない

あてはまらない

《各アンケート結果より》

児童アンケートより

児童アンケートにおいて、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた肯定的な回答は、いずれの項目においても80%を超えており、本校の子どもたちの全体的な意識の高さがうかがえました。特に「10. 将来の夢や目標をもっている」の質問では「あてはまる」の回答が72.2%と非常に高く、【参考①】の全国的な調査結果と比較してみても本校の子どもたちが将来や近い将来について希望をもっていることが分かります。「こうなりたい」と希望をもつことは生きる活力へと繋がっていき、将来自分自身で人生を切り拓いていく大切な原動力となります。「下鴨小学校のめざす子ども像『a・i・u・e・o』の「ambition:見通しをもった志のある子」「innovation:新たなことにチャレンジする子」に子どもたちが迫っているのだと受け止め、今後も教職員をはじめ身近な大人たちが子どもたちにかっこいい大人の姿を見せることで子どもたちを応援していきたいと思います。

一方で昨年度同様に、「8. 授業で自分の考えに自信をもっている」「18. 自分と違う意見について考えるのは楽しい」の質問に対する肯定的な回答が、他の質問と比較して低い様子がうかがえます。昨年度の結果を踏まえ、今年度は教職員が一丸となって「伝えたい!」という意欲を育むような授業づくりに日々取り組んでいます。引き続き授業を中心にして行事等の機会も活用しながら、子どもたちが自分の考えや思いを友だちに伝えたり、伝え合う喜びや楽しさを実感できたりするように関わっていきたいと考えています。

保護者・地域アンケートより

「保護者アンケート」中に記述にいただいたご意見等については、11/11(月)～11/15(金)の9:00～17:00まで職員室にて閲覧していただけますので、ご希望の方は職員室にお声かけください。

保護者・地域アンケートにおいて、「1. 『子どもたちのアンケート結果』から、子どもたちは学校で力を伸ばしていると思う」「2. 『子どもたちのアンケート結果』から、子どもたちは『めざす子ども像』に一步ずつ近づいていると思う」という質問に対して、肯定的な回答が90%を超えていますが、いずれも「あてはまる」の回答数が50%に満たない結果となっており、学校での取組や成果を皆様方に向けて丁寧にお伝えしきれていない部分があったのではないかと思います。今後は学級通信や学校ホームページ、授業参観や懇談会などの機会に、学校でどのような力を伸ばしているのか、本校の「めざす子ども像」とは何なのかを明確に示すことで、項目に対してよりイメージができる質問になるのではないかと感じました。

保護者の皆様方が子どもへの関わり方について振り返っていただく項目では肯定的な回答が非常に高いことから、日々子どもたちに関心を向けておられるご家庭が多いことがうかがえます。記述での回答の中には、高学年になるにつれて親の子どもへの関わり方を変えていかなければならないといったご意見もありました。学校では昨年度からUnit制を取り入れ、より多くの教員が子どもたちと関わりをもてるようにしています。どの学年でも子どもたちの成長段階に合った関わり方で子どもたちの成長に寄り添い、よりよく育むために、保護者の方々と地域の方々、そして教職員の私たちがチームとなって下鴨の子どもたちに関わっていききたいと考えています。その点において、保護者・地域アンケートにおいて「自分は、学校の取組を応援したいと思う」への回答はどちらも非常に高く、本校の教育活動を推し進めるにあたり教職員にとっては大変励みとなる結果でした。

アンケート項目で伝えきれない点については、記述でお答えいただきました。その中で、水泳学習への参加承諾について学校保護者間連絡アプリ「すぐーる」での健康観察及び参加承諾の入力が負担だというご意見をいただきました。確かに朝のお忙しい時間に慣れない「すぐーる」での入力には本当に大変なことと存じます。一方で、命の危険のリスクが他の活動より大きい水泳学習において、保護者の方の了解を確実にいただくことは安全を保障する上で欠かせません。その際、端末からの回答が最も信ぴょう性があると判断できます。従来のカードや水着等の持参は児童自身の判断でも対応できてしまい、保護者の承諾を得られたと言い切れない部分があります。また、教職員は水泳学習実施に際し、通常業務に加え、水質管理等様々な対応をしているため、個別のご連絡は難しいこともご理解いただけますと幸いです。水泳学習がある日には保護者の皆様方には「すぐーる」での健康観察及び参加承諾の入力についてご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

最後に前期「『みんなで成長』アンケート」の保護者回答数が全家庭の半分以上となっています。後期はより多くの皆様方からアンケートへの回答をいただけるように、学校からも積極的に周知させていただきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

教職員アンケートより

教職員アンケートの結果において、どの質問項目においても肯定的な回答が高くなっています。特に「3. 本校は、よりよい教育活動に向けて努力していると思う」の回答からは、どの教職員も目の前の子どもたちのためにと日々前向きに取り組んでいることがお分かりいただけるのではないのでしょうか。本校だけでなく全市的にも若い世代の教職員が増えている中で、経験年数の多い教職員が寄り添いながら共に下鴨の子どもたちのために最良の選択ができるようにと日々の学習活動をはじめとして全ての教育活動に取り組んでいます。

その中でこの教職員アンケートから見えてくる課題としては、子どもたちの資質・能力の育成の面です。「11. 自分は、子どもたちが『伝える意欲』を発揮できるように学習活動を工夫できている」の質問では、「あてはまる」の回答が15%と低くなっています。これは私たち教職員が進めている学習活動において、まだまだ研究途中で試行錯誤していることが表れています。子どもたちの発達段階に合わせて、どのような学習活動が効果的なのかを昨今のICT活用も含めて日々模索しています。今後も子どもたちと一緒に学習活動を創造していきながら、下鴨の子どもたちが互いの考えを伝え合い、学び合う楽しさを実感できるように頑張りたいと思います。

学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会からのコメント

昨年からは児童へのアンケートを先に行い、全校や低中高学年の児童の意識や行動の傾向を踏まえて、保護者・教職員・地域が回答するという形になりました。子ども全体を見てほしいというのは、思いとしては分かるけれど、子どもの成長をどうとらえるかの具体的なイメージが思い浮かべにくく、また、多くの項目や学年の結果を読み取らなければならないこともあり、回答するのが難しいところもあります。学校運営協議会理事会・開かれた学校委員会でもその点は議論になり、子どもと大人の成長をより明確にとらえられるよう、質問形式、項目内容や項目数、結果の見せ方も含めて、さらに検討・改善を進めたいと考えています。

さて、結果は全体としてポジティブではあるものの、児童の肯定的回答の割合が90%程度以上の項目がある一方で（自己の肯定、将来の夢、他者の話を聞く、他者を援助する、など）、否定的な回答の割合が20%前後ある項目もあります（大人への相談、自分の考えに自信、自分と違う意見を考える、など）。これらは、多少のブレはあるものの、例年の結果に近い傾向であり、ある意味では本校児童の特徴であるともいえるかもしれません。もちろん、そのままではよいということではなく、よい面はさらに伸ばし、そうでないところも底上げしていくよう、子ども一人ひとりの状況や状態も考慮しながら、学校・家庭・地域が協力して取り組んでいくこと、そういう気持ちを持つことを願っています。もちろん、子ども自身にも、成長するんだ、伸びるんだという気持ちでいてほしいです。

また、理事会・委員会では、積極的に発言・行動する子や上手にできた子どもをほめるのはもちろんですが、前に出ない子ども、目立たない子ども、うまく課題ができなかった子どもにも、できるだけ前向きに声をかけてほしい、そうすることで「自分も見られている」という気持ちが育つのではないかと（そうでないところへこんでしまう子もいる）、という議論もありました。学校だけではなく、家庭でも、地域でも、大人から子どもへの関わりにおいて、大切にしたいことだと思っています。